「Die Brücke 架け橋」第743号 令和７年８月１日発行（隔月刊）公益財団法人日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft

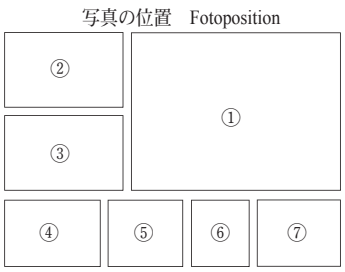
Die Brücke 架け橋

日独協会機関誌

2025 8

表紙の言葉

ドイツ・ヴュルツブルクの歴史と文化が詰まった一枚。



①**丘の上に堂々と建つマリエンベルク要塞**は、晴天のもとマイン川にその姿を映し、街の象徴として存在感を放つ。

②要塞から見下ろすと、石造りのアルテ・マイン橋と聖キリアン大聖堂を擁する**旧市街**が雨上がりの空に映え、中世の風景がよみがえる。

③バロック建築の傑作**レジデンツとその庭園**はユネスコ世界遺産に登録され、毎年開催されるモーツァルト音楽祭の舞台ともなる。

④日本とゆかりの深い**シーボルト博物館**では、医師として活躍したシーボルトとその一家の足跡を辿ることができ、今回の独日協会連合会総会の会場ともなった。

⑤1990 年のヴュルツブルク州庭園博会場の**日本庭園「近江の庭」**は、大津市との姉妹都市提携を記念して造られ、琵琶湖や比叡山を模した風景に日独の友情と自然美が静かに息づいている。

⑥マインフランケン博物館では、世界最大規模の**リーメンシュナイダーの繊細な彫刻作品**が訪れる人の心を癒す。

⑦爽やかな酸味と芳醇な香りが魅力の**フランケンワインは**、独特なボックスボイテル瓶に詰められ、地元の誇り。

柚岡 一明（日独協会常務理事）

Zum Titelbild

Würzburgs Geschichte und Kultur auf einen Blick

(1) Die Festung Marienberg thront majestätisch über der Stadt, spiegelt sich bei schönem Wetter im Main und prägt als Wahrzeichen das Stadtbild Würzburgs.

(2) Von der Festung aus blickt man hinab auf die Altstadt mit der steinernen Alten Mainbrücke und dem Dom St. Kilian – nach dem Regen erwacht die mittelalterliche Szenerie zum Leben.

(3) Die Würzburger Residenz mit Hofgarten, ein wahres Meisterwerk barocker Baukunst, gehört zum UNESCO-Weltkulturerbe und ist Schauplatz des jährlich stattfindenden Mozartfests.

(4) Das Siebold-Museum hat eine enge Beziehung zu Japan und bietet einen Einblick in das Leben des Arztes Siebold und seiner Familie – außerdem war es Veranstaltungsort der diesjährigen Tagung der Deutsch - Japanischen Gesellschaften.

(5) Der Japanische Garten „Ohmi no Niwa“ auf der Landesgartenschau Würzburg 1990 wurde zur Feier der Städtepartnerschaft mit Ōtsu angelegt. Die Landschaft bildet den Biwa-See und Berg Hiei nach und symbolisiert Japan und Deutschlands Freundschaft sowie die Natürschönheit beider Länder.

(6) Im Museum für Franken stehen die berührenden, filigranen Skulpturen von Riemenschneider, einem der weltweit bedeutendsten Bildhauer.

(7) Der Frankenwein ist bekannt für seine erfrischende Säure und sein vollmundiges Aroma. Er wird in der typischen Bocksbeutelflasche abgefüllt und zählt zum Stolz der Region.

Kazuaki Youka (Vorstandsmitglied der JDG)

目　次　／　ページ／ Seite　／　INHALT

協会活動報告	1	**JDG-Aktivitäten**
2024 年度事業報告 森 宏之	4	**Geschäftsbericht der Japanisch-Deutschen Gesellschaft 2024** Hiroyuki Mori
2024 年度公益財団法人日独協会決算報告 **2025 年度役員リスト**	5	**Finanzbericht zum Geschäftsjahr 2024** **Liste der Vorstandsmitglieder**
セルマモリ（研修生コラム） **インタビュー：レア・ツヴァフィンクさん** セルマ・バーナート	6	**SELMAMORI Selma’s Omamori Expo 2025 : Hinter der Kulissen des deutschen Pavillions mit Lea Zwanfink** Selma Bannert
大阪・関西万博開催記念 特別企画	7	**Anlässlich der Osaka-Kansai Expo: Sonderprogramm**
2025 年度独日協会連合会総会参加報告 柚岡 一明 **UTSUWA（器）プロジェクト ワークショップ EXPO2025 ドイツパビリオンにて開催** 内田 利恵子	8	**Bericht zur Verbandstagung der Deutsch-Japanischen Gesellschaften** Kazuaki Yuoka **UTSUWA Projekt Workshop im deutschen Pavillon EXPO2025** Rieko Uchida
ドイツの新首相：フリードリヒ・メルツ 池田 良一	9	**Neuer deutscher Bundeskanzler: Friedrich Merz** Ryoichi Ikeda
ドイツの大学が変貌している ードイツの大学制度改革と高等教育のユニバーサル化ー（後編） 佐藤 勝彦	10	**Die Universalisierung der Hochschulbildung und die Reform des Hochschulsystems (2)** Katsuhiko Sato
ベルリナールフト：ベルリンで日本を体験 クリスティン・ホーアイゼル	11	**Berliner Luft : Japan erleben in Berlin** Kirsten Hoheisel
ドイツ経済の動き 第 94 回 伊﨑 捷治	12	**Tendenz der deutschen Wirtschaft (94)** Shoji Isaki
オーストリア、こんなトコロに行ってみた：ウィーンのカフェ ミュージアム 佐川 洋子 **お知らせ** 事務局	13	**Österreich, da und dort : Cafe Museum in Wien** Yoko Sagawa **Informationen** Sekretariat der JDG

新入会員交流会　～ドイツパンをいただきながら～

5/25㈰　15:00 ～ 17:00　日独協会セミナールーム

Treffen für die neuen Mitglieder zusammen mit Deutschesbrot

Datum: So., 25. 5. 25, 15.00-17.00 Ort: Seminarraum der JDG

2年前に好評をいただいた新入会員交流会を再び開催しました。気軽に、なるべく若い方も参加がしやすいようにと、日曜日のお昼間に設定し、ドイツパンをいただきながら、会員同士だけでなく、協会役員、スタッフ、ドイツ人研修生とも交流していただきました。参加者は昨年から今年春にかけてご入会の11名、20 ～ 70代の幅広い年代の方々にお越しいただきました。

新入会員交流会の皆さんで乾杯

企画発案者である私の司会・進行で、前半は、柚岡常務理事よりご挨拶の後、事務局スタッフより、協会HPをスクリーンに映しながら、各事業の紹介と説明を行いました。参加者全員の自己紹介の後、途中一部の席を移動しながら交流していただいたところ、最後には和気あいあいとした楽しい雰囲気で終えることが出来ました。昨年に研修生として大活躍されたフローリアンさんが、自作のドイツパンを差し入れてくださり、事務局が用意したものと合わせて楽しむことが出来ました。

ドイツ旅行だけでなく、大学でドイツ語を学んだことがある方や、留学経験がある、ドイツで就業経験がある方等、様々なドイツとの関りを知ることが出来、大変興味深かったです。ドイツ語講座やシュプラッハトレフに参加したことのある方々もおられ、まだイベント参加に対して敷居が高く感じて躊躇していた方には、参加者の感想を直接聞けたことで、前向きになっていただけたようです。

スタッフも、イベントでは裏方で忙しく過ごすことが多いので、今回のようにじっくり皆様のお話を伺えたのは、大変貴重な機会となりました。これをきっかけに、新入会員の皆様には、イベント参加を通じて、積極的に日独交流を楽しんでいただければと思います。　**上野 弥生**（日独協会理事・運営委員）

黒い森のシュペッツレ

6/6㈮　18:20 ～ 20:50　千駄ヶ谷社会教育館料理室

Kässpätzle Schwarzwälder Art

Datum: Fr., 6. 6. 25, 18.20-20.50 Ort: Sendagaya Shakai Kyōikukan Ryōrishitsu

シュペッツレは、研修生セルマさんの故郷、「黒い森」地方の伝統的な家庭料理で、すいとんのような麺料理です。今回はチーズと絡めて食べる「チーズシュペッツレ」と、りんごムースを作りました。シュペッツレは、セルマさんのおばあさまのレシピを参考にしました。

生地作り

参加者は14名。最初にセルマさんから自己紹介や故郷の紹介、シュペッツレの説明､最初の工程のデモンストレーションの後､参加者も3～4人のグループに分かれて調理を開始しました。皆さん、それぞれの調理台でチームワークよく作業をすすめていきます。シュペッツレの生地ができあがり、ねかせている間に、りんごムース作りも始まりました。シュペッツレの生地は、ねかせている間に粘り気が増し､おろし器の穴からなかなか押し出させなくなってしまいました。そこで、再度水を加えてゆるさを調整してから、沸騰したお湯におろし器で落としていきました。シュペッツレといえば、この作業がもっとも典型的な工程です。皆さんも、最初は少し大変そうでしたが、すぐに慣れて､どんどん生地を鍋に落とし入れていました。ゆであがったシュペッツレはすぐにチーズやバターと絡めます。この段階に入ると、部屋中にチーズの濃厚な香りとりんごムースの爽やかな香りが充満してきました。最後にお皿にチーズシュペッツレを盛って、フライドオニオン、パセリ、ナツメグをトッピングし、りんごムースをそえて出来上がり。

生地をおろし器でお湯に落として作業

どのチームも美味しくできたようで、皆さん嬉しそうに、感想を述べながら試食していました。

イベントの最後にセルマさんから素敵なプレゼントが！彼女の故郷の民族衣装の帽子をかたどった飾りです。イベントのためにコツコツと手作りしてくれたそうです。皆さんとの楽しい料理、おいしいシュペッツレ、心のこもったプレゼント、と素敵な「黒い森のシュペッツレ」の時間となりました。

左：完成したシュペッツレとセルマさん
右：民族衣装の写真の上に置かれた、セルマさんからの手作りプレゼント

ドイツ語圏文化セミナー *171*

6/20 (金)　19:00 ～ 21:00

Eine Führung von dem staatlich geprüften Fremdenführer duch Wien; dort wo Strauss eine bedeutende Rolle spielte.

Datum: Fr., 20. 6. 25, 19.00-21.00

今年がシュトラウス 2 世の生誕 200 周年であることを機に、ウィーン在住のオーストリア国家公認ガイド、今井謙さんとオンラインでつなぎ、シュトラウス 2 世について、ゆかりの地や生誕 200 周年記念行事等についてお話いただきました。

前半はワルツや、シュトラウス家とシュトラウス 2 世の生い立ちの説明から始まりました。シュトラウス 1 世は息子が音楽家になることを望まず、バイオリンを習わせようとしなかったこと、息子の初めてのコンサートの許可を出さなかったこと、といったエピソードも紹介され、音楽一家で何不自由なく技術を磨いたとばかり思っていたため、非常に意外で面白く感じました。後半は、シュトラウス 2 世ゆかりの場所、記念碑、住居や墓に加えて、新しい施設「House of Strauss」や、シュトラウスの人生を埋没型の展示でたどることができる「ヨハン・シュトラウス博物館－新次元 (Johann Strauss Museum – New Dimensions)」も紹介されました。この博物館では自分でオリジナルのワルツを作ることもできるそうです。また、市立公園内にある金色のシュトラウス像は、戦時中に金がはがされ、再度金色に塗られたのは 1991 年になってからとのことで、意外にも金色ではなかった時期の方が長いというのも面白いエピソードでした。

ウィーンでは今年、他にも関連イベントがたくさん予定されているそうです。セミナーに参加できなかった方も、もし関心がありましたら、ウィーン観光局のウェブサイト（https://www.wien.info/ja）をチェックしてみてください。

菊池 菜穂子（日独協会職員）

第 4 回はじめてのドイツワイン　テーマ：「初夏に楽しむドイツワイン」

6/29 (日)　14:30 ～ 16:30　日独協会セミナールーム

Deutscher Wein für Anfänger (4) Thema: Deutscher Wein für den Frühsommer

Datum: So., 29. 6. 25, 14.30-16.30 Ort: Seminarraum der JDG

一年ぶりに、このイベントを開催できました。今回は会費を少し上げた分、ワインの種類や品質もアップグレードしました。参加者が集まるか心配でしたが、20 席満席になり安心しました。参加者は会員 10 名、一般 10 名と、一般の方にも人気があったようです。今回もテーマにあわせて多種のワインを準備しましたが、皆さんほとんど残さず試飲されたのは驚きました。元研修生のフロリアンさん、現研修生のセルマさんの参加で、ドイツの新鮮な状況も聞くことができ、楽しいワイン会になりました。参加者からは冬もぜひ開催してほしい！！との嬉しいリクエストもいただきました。下記に講師や参加者より感想をいただきましたのでご紹介いたします（敬称略・順不同）。

賀久 哲郎（主宰者・日独協会理事）

「初めてのドイツワイン」講座もこれで 4 回目となりました。今回は講師の賀久さんと小倉、伏見ワイン山本さんに加え、お手伝いの友金さんセルマさんで皆さんをお迎えしました。「初夏に楽しむワイン」とのことで、ゼクト 1 種、白ワイン 3 種、ロゼ 1 種、赤 1 種、甘口シュペートレーゼ 1 種をお楽しみいただきました。今回も賀久さんのドイツワインについてのパワーポイントでの講義のあと、ワイン一つ一つを楽しむ時間をとり、解説と楽しみ方をお伝えさせていただきました。今回の目玉は白ワイン 3 種類の飲み比べ。違いがわかりやすいものを用意し、たくさんのおつまみとともにどんな味わいのワインが何に合うのか発見の楽しさを味わっていただきました。「ドイツワインにはドイツ料理を」ができれば良いのですが、ペアリングのコツを掴めば和食でも中華でもピッタリ合わせることができます。これを機に日常のお食事とドイツワインを楽しんで下されば幸いです。

小倉 彩記子（講師）

「はじめてのドイツワイン」に参加し、とても素敵な時間を過ごすことができました。会の中では、実際にテイスティングをしながらドイツワインの基礎知識や楽しみ方を教わり、ワイン初心者の私も楽しみながら学ぶことができました。今回は 7 種類のワインとおつまみも数種類ご準備いただき、香りや味わい、ペアリングを比較しながら違いを楽しむ貴重な機会でした。特に印象に残っているのは「ドイツワインと和食のペアリング」についてのお話でした。意外な組み合わせですが、色々とおすすめを教えていただいたので、今後ドイツ人の友人も交えて試すことができればと思っています。素敵な会をご準備いただきありがとうございました！

染谷 青梅（日独協会会員）

Zum Wohl !! まさに目から鱗、心がワクワクする講座でした。理事の賀久様とスタッフの方々の解説は、とてもわかりやすく、また詳細で、ドイツワインの “真の魅力” に導いてくださったように感じています。7 種類ものワインをご用意してくださり、香りや味わいの違いに、こんなにも違うのね～、と奥の深さに感動。そして、このワインにはどんなお料理が合うのかしら？と、ご準備くださったおつまみを食しながら、参加者とお喋りするのも楽しかったです。もちろん、基礎知識、エチケットの読み方、地域別、そしてブドウの品種などの豆知識など頭の中も心地よくドイツワインで満たされました。良き偶然のご縁で、神戸より初めて日独協会東京に参加させていただけ温かく受け入れてくださった皆様に感謝いたします。

Vielen Dank !!

岩木 美保（神戸日独協会会員）

ドイツ語講習会 2025 年度上半期コース
月～日曜日
Deutschkurse in der JDG, April - September 2025
jeden Mo.-So.

独逸塾
6/16 (月)　19:00 ～ 21:00
Gesprächskreis: Neuigkeiten aus Deutschland
Datum: Mo., 16. 6. 25, 19.00-21.00
参加者 19 名。
1．テキストは 2025 年 2 月 15 日シュピーゲル誌の記事 „Die Beschleunigung der »Kill Chain«“
人工知能（AI）が軍事、防衛分野において、これまでの戦争の段階的プロセスを劇的に高速化し、従来の軍需産業の構造を揺るがしている。AI 搭載のセンサーや指揮システムが即時分析、判断を可能にし Kill Chain（標的の発見から攻撃実行までの一連のプロセス）の各フェーズ間の時間差がほぼゼロに近づいていると指摘している。これにより小規模スタートアップ企業が迅速に新兵器、指揮統制ソリューションを開発し、従来の大手防衛産業と競合し得る構図が生まれつつある。さらに AI 導入によって意思決定の自動化が進む一方で、倫理的、法的課題も顕在化しており「人間の判断」の介在が依然として不可欠であると結論付けている。背景にはロシアのウクライナ侵攻後ドイツで成立した 1,000 億ユーロの防衛補正予算の存在がある。ドイツのスタートアップ企業としてレーダー電子戦の Hensoldt、無人機の Helsing、小型垂直離着陸ドローン開発の Quantum-Systems、Rheinmetall が 51％出資しているソフトウェア開発会社 blackned がある。
2．テキストは 2025 年 3 月 3 日の Süddeutsche Zeitung より „Urlaub ist unverzichtbar – auch in Krisenzeiten“
経済不安や物価上昇が続く中でもドイツ国民は旅行を重要視している。2024 年には 5,600 万人が 5 日以上の旅行に出かけ総支出額は過去最高の 100 億ユーロに達した。ドイツ語の表現をめぐり活発に議論が交わされた。　（森永 成一郎）

ドイツ時事問題研究会
6/21 (土)　15:00 ～ 17:00
Studiengruppe “Deutschland aktuell” (111)
Datum: Sa., 21.6. 25, 15.00-17.00
今月の主なトピックスは、①変化するドイツの対イスラエル政策、②スタートする新政権の重点政策、③「上出来」だったメルツ首相のトランプ会談、④低所得者に高く、高所得者に低かった賃上げ率、⑤高まる極右、極左の脅威、⑥経済研究機関が伝える景気回復の兆しなどを取りあげ、背景などを報告し、質疑応答を行った。
「今月のテーマ」は「勤勉でなくなったドイツ人？」で、病欠が急増したとされるドイツ人の最近の働き方について新井世話人から報告し、病欠届のデジタル化や在宅勤務の増加など、背景要因を探った。
もう一つのテーマは「ドイツの極右－位置づけから政党禁止まで」と題して、伊崎から「防衛する民主主義」の考え方、国民の啓発を含む憲法擁護庁の役割、裁判による位置づけの確定、AfD を確証のある極右と位置づけるに至った基準や背景要因、基本法に基づく政党の禁止をめぐる各党の主張やや国民の見方などを紹介し、活発のな議論を行った。
（伊﨑 捷治）

シュプラッハトレッフ（日独言語交換会）
6/21 (土)　19:00 ～ 20:40
Sprachtreff
Datum: Sa., 21. 6. 25, 19.00-20.40
今回のテーマは「音楽」と「日常」でした。日本とドイツの音楽を比較するだけでなく、参加者の皆さんそれぞれの好みの音楽を知る素晴らしい機会にもなりました。
沖縄の曲から「雲の上（Über den Wolken ラインハルト・マイの曲）」まで、80 年代のヒット曲や最近人気の曲、クラシック、ロック、ポップなどジャンルを問わず、さまざまな曲が紹介されました。
ネーナの「99 Luftballons」のような、みんなが知っている曲もありましたし、初めて聞く曲もたくさんありました。参加者の方々が紹介してくれた曲の多様さに感動しました。
今回紹介された曲の多様性を皆さんにも知ってもらえるように、音楽プレイリストを作成しました。Sprachtreff ミックスは、ぜひ YouTube、Spotify、Apple Music で聴いてみてください！「Sprachtreff 音の架け橋 - Klangbrücke 日独協会 JDG」というタイトルで公開されています。　（セルマ・バーナート）

懇談会サロン「ドイツ大連立政権の動向」
6/30 (月)　18:00 ～ 19:30
Gesprächssalon
Thema: Die Entwicklungen der großen Koalition in Deutschland
Datum: Mo., 30. 6. 25, 18.00-19.30
講師:縣 公一郎先生（早稲田大学政治経済学術院教授）
参加者 15 名。

ドイツと日本の連立政権の形成や選挙制度、政党構成の変遷、政治安定性、政策形成能力の違いについて比較・解説して頂いた。ドイツの連邦議会選挙は第 1 票（小選挙区）と第 2 票（比例代表）の 2 票制（比例代表小選挙区併用制）で行われている。議席配分は第 2 票の政党得票率で決定され、第 1 票は各小選挙区の候補者選出に使われる。超過議席が発生した場合、調整議席で全体の政党間配分のバランスを取る。この為、近年議席数が増加していた。しかし今年 2 月 23 日の連邦議会選挙から、超過議席・調整議席が廃止され、連邦議会定数は 630 に固定された。講演ではドイツの大連立の歴史と意義、選挙制度の特徴、政党の変遷、連邦参議院の仕組み、財政政策、社会的課題（移民・徴兵制・東西格差）など幅広く取り上げ、両国の政治体制の特徴と課題を明らかにして頂いた。　（木田 宏海）

※会場が書かれていないイベントはオンラインで開催されました。

2024 年度 公益財団法人日独協会　事業報告

森 宏之（日独協会理事）

1．業務運営

会員同士の交流促進に加え、他の日独関係機関等との交流拡大を目指し、ネットワークの強化を図った。次世代の育成にも重点を置き、ドイツ語学習に力を入れる高校、大学との連携を強化した。また当協会のホームページのリニューアルを実施した。令和 6 年度末で個人会員数は 594 人と前年度末比不変、法人会員数は前年度末から 1 社減の 47 社となった。

2．事業内容

⑴　多様な事業を実施し広報活動を行った

①対面でのイベントを増やし、日独両国の会員同士の交流を図った。また会員としてのメリットを強調し、新規会員の勧誘並びに既存会員の継続に努めた。

②会員のニーズに応じて、新規セミナーやドイツ語講座、文化交流イベントを実施し、提供するサービスの充実に尽力した。

③機関誌「Die Brücke」について、隔月の編集委員会での議論をもとに、読者の関心や要望に応える内容を目指した。また会員の寄稿・投稿募集にも引き続き積極的に取り組んだ。

④ホームページリニューアルに加え、日独協会のパンフレットを刷新、ドイツ語版も作成し国内外の関係機関に配布した。

⑵　収益事業の強化に努めるとともに財政の健全化に注力した

①オンライン及び対面で上半期ドイツ語講座（24 講座）、ドイツ語夏期講習会（12 講座）、下半期ドイツ語講座（22 講座）、ドイツ語春期講習会（11 講座）を開催した。
受講者は延べ約 500 人となった。

②公益財団法人文京アカデミーが主催するドイツ文化セミナーを引き続き受託した。

③契約更新時の賃料値下げ交渉等によって管理費の節約に努めた。

⑶　関係機関との連携を強化した

①全国日独協会連合会総会を鳴門日独友好協会とともに徳島県鳴門市にて開催、東原会長にご出席頂き、フォン・ゲッツェ駐日ドイツ大使等要人を多数招待した。

②ドイツ大使館主催の若者会員を対象とした「サマーパーティー」が 6 月に、また各世代の会員を対象とした「夏祭り」が 9 月に開催され、それぞれ約 100 名の全国の日独協会役員、会員が参加した。

③湘南日独協会、千葉日独協会、横浜日独協会と協力し、オンライン及び対面形式で各種講演会やイベントを共同で企画・開催した。

④日独産業協会（DJW）、ドイツ東洋文化研究所（OAG）、ドイツ学術交流会（DAAD）との定期的な会合を開始し連携を強化した。

⑤ 10 月にベルリンで開催された「日独パートナーシップデイズ 2024」(独日協会連合会主催) に、全国の日独協会会員 50 名（渡航費用の支援を受けた若手会員 14 名含む）が参加し活発な議論が行われた。その成果は「ベルリン宣言」として取り纏められ、今後の活動指針となった。

3．令和 6 年度の主な会議開催日、主要事業実施日等

⑴　主な会議開催日と事務所休館日

①理事会の開催：
第 1 回（5 月 28 日）、第 2 回（6 月 19 日：書面開催、第 3 回（12 月 2 日）、第 4 回（3 月 17 日）

②評議員会（6 月 12 日）

③連続休暇：夏休み（8 月 19 日～ 30 日）、
冬休み（12 月 21 日～ 1 月 5 日）

⑵　令和 6 年度の主要事業実施日

① 4 月 6 日～ 9 月 12 日
オンラインドイツ語講座上半期コース実施
（一部対面　24 講座）

② 4 月 18 日～ 20 日
全国日独協会連合会年次総会開催（鳴門市）

③ 5 月 10 日～ 11 日
独日協会連合会総会参加（カールスルーエ市）

④ 6 月 14 日
ドイツ大使主催「サマーパーティー」参加
（ドイツ大使館事務棟）

⑤ 7 月 26 日～ 8 月 17 日
オンラインドイツ語夏期講習会実施（12 講座）

⑥ 8 月 3 日～ 4 日
獨協大学創立 60 周年記念「Dokkyo ドイツフェス」出展参加（獨協大学草加キャンパス）

⑦ 9 月 23 日
ドイツ大使主催「夏祭り」参加（ドイツ大使公邸）

⑧ 10 月 1 日～ 3 月 30 日
オンラインドイツ語講座下半期コース実施
（一部対面　22 講座）

⑨ 11 月 2 日
ドイツフェスティバル出展（都立青山公園）

⑩ 12 月 2 日
「クリスマスの集い」開催（日立目白クラブ）

⑪ 1 月 10 日
「新年の集い」開催（協会セミナールーム）

⑫ 3 月 1 日～ 28 日
オンラインドイツ語春期講習会実施（11 講座）

⑬ 3 月 7 日
柳前駐ドイツ大使による新春特別講演会・懇親会開催（対面 OAG ホール）

ドイツ大使主催「夏祭り」にて

2024 年度 決算報告

2024 年度決算報告の主な要点は以下の通り。経常収益は前年度比 1,637 千円減少。

この主な要因は寄付金、ドイツ語講座等事業収益の減少による。一方、経常費用はドイツ語講座等事業費用の減少により 1,628 千円の減少となった。その結果、経常増減額は 8 千円減少の 17 千円のプラスとなった。

2024年度決算　（単位千円）

	2023年度	2024年度
基本財産運用益	3,324	3,804
受取会費	12,213	11,918
事業収益	18,936	17,438
受取寄付金	990	654
雑収益	296	307
経常収益	35,760	34,122
事業費	29,930	28,300
管理費	5,803	5,804
経常費用	35,734	34,105
評価損益等調整前当期経常増減額	25	17
基本財産評価損益等	13,716	△3,583
当期経常増減額	13,742	△3,566
経常外収益	0	0
経常外費用	0	0
当期経常外増減額	0	0
当期一般正味財産増減額	13,742	△3,566

2025 年度役員リスト

公益財団法人 日独協会　名誉会員、名誉会長、理事、監事、評議員、顧問、諮問委員（敬称略・順不同）（2025 年 6 月末現在）

Ehrenmitglieder, Ehrenpräsident, Vorstand, Revisoren, Aufsichtsrat, Berater und Beirat der JDG (Ehrentitel weggelassen, unbestimmte Reihenfolge)

名誉会員
Ehrenmitglieder

Botschafter a.D. Walter Boss
Botschafter a.D. Heinrich-Dietrich Dieckmann
Botschafter a.D. Henrik Schmiegelow
Botschafter a.D. Volker Stanzel
Botschafterin a.D. Ina Lepel
Botschafter a.D. Hans-Joachim Hallier
Botschafter a.D. Uwe Kaestner
Botschafter a.D. Hans-Joachim Daerr
Botschafter a.D. Hans Carl von Werthern
Botschafter a.D. Clemens von Goetze

名誉会長
Ehrenpräsident

ペトラ・ジグムント大使
Botschafterin Petra Sigmund

代表理事・会長
Vorsitzender/Präsident

東原敏昭
Toshiaki Higashihara

副会長
Vize-Präsidenten

八木毅 Takeshi Yagi
恵谷英雄 Hideo Etani

常務理事
Hauptgeschäftsführer

柚岡一明
Kazuaki Yuoka

理事
Mitglieder des Vorstandes

賀久哲郎 Tetsuro Gaku
ゲオルク・ケイ・ロエル Georg K. Löer
後藤禎一 Teiichi Goto
ハインリッヒ・メンクハウス Heinrich Menkhaus
三阪弥生 Yayoi Misaka
佐藤勝彦 Katsuhiko Sato
森宏之 Hiroyuki Mori
木田宏海 Hiromi Kida
小野竜史 Tatsuhito Ono
中村安菜 Anna Nakamura

監事
Revisoren

小泉哲哉 Tetsuya Koizumi
大久保明 Akira Okubo
松田邦夫 Kunio Matsuda

評議員会
Aufsichtsrat

議長
Vorsitzender

平松龍文
Tatsuyuki Hiramatsu

副議長
Stellvertretender Vorsitzender

柴田明
Akira Shibata

評議員
Mitglieder des Aufsichtsrates

磯田昇 Noboru Isoda
大越忠光 Tadamitsu Ogoe
大倉喜彦 Yoshihiko Okura
藤田明 Akira Fujita
杉江真理子 Mariko Sugie
安永隆則 Takanori Yasunaga
出原悠 Hisashi Idehara
樋上雅之 Masashi Higami
相澤啓一 Keiichi Aizawa
永野博 Hiroshi Nagano
宮地剛 Tsuyoshi Miyachi
池田良一 Ryoichi Ikeda
田野武夫 Takeo Tano
大谷和正 Kazumasa Otani

顧問
Berater

河村繁一
Shigekazu Kawamura

諮問委員
Beirat

海老澤敏 Bin Ebisawa
井上壽博 Juhaku Inoue
岩上和道 Kazumichi Iwagami
菊池恒夫 Tsuneo Kikuchi
木村直司 Naoshi Kimura
紀藤重成 Shigenari Kito
松田源治 Genji Matsuda
筒井義信 Yoshinobu Tsutsui
沢田敏男 Toshio Sawada

HITACHI

next を考え続けることは、

前へ進む力になる。

next を追い求めることは、

解決策を実現する力になる。

What’s next? —— その問いの先には、

無限の可能性が広がっている。

Inspire the next

「Do Bridge 架け橋」第七四三号 令和7年8月1日発行（隔月刊） 公益財団法人 日独協会 定価一部三百円